博多やまかき小僧 走者姿に

中央区役所前でエール

ランナー姿になった「博多やまかき小僧」＝福岡市中央区

8日の「福岡マラソン2015」を前に、福岡市中央区大名の中央区役所前にあるブロンズ像「博多やまかき小僧」2体が4日、ゼッケンや鉢巻き姿のランナー仕様に衣替えした。大会当日まで、地元の雰囲気を盛り上げる。

小僧の像は1997年設置。博多祇園山笠の法被を着た男児をかたどった愛らしい姿が親しまれている。ランナーの衣装づくりを担当したのは、大村美容ファッション専門学校（中央区黒門）の杉山杏奈さん（19）と金城優花さん（19）。用意した大会カラーの黄色と青色の2種類をそれぞれ1体ずつ飾り、胸元に大会ロゴをあしらっている。

衣装を着せ終えた杉山さんは「小僧も一緒に走っているイメージで作りました」と話していた。

福岡マラソン FUKUOKA MARATHON 2015 11月8日号砲

秋月で藍染め習

仏の染織芸

中央区 月、秋、

【パリ国分健史】朝倉市秋月で藍染めを学んだフランスの染織芸術家イザベル・ド・メゾヌーブさんが、福岡市中央区大名のアンスティチュ・フランセ九州で展覧会「月光に舞う」を開催している。新しい自分を発見できた福岡への感謝の思いを込め、月、秋、宇宙をイメージした幻想的な絹、絞りの作品約20点を展示している。13日まで。

イザベルさんは1991年、日本の能と藍を学ぶために京都から広島、福岡と訪れ、偶然立ち寄った朝倉市の染色工房「藍色生活館」（長谷川まさこ代表）で藍染めを干す風景に出合った。飛び込みで指導を頼んだものの、断られて帰国。

夕ーを続けた。結婚、子育てが一段落してから絵を描き始め、個展を続けている。

諦めきれず、翌年に国際交流基金の奨学金で再来日し、弟子入りして1年間滞在し、じっくり学んだ。

〝里帰り展〟を果たしたイザベルさんは「絹は繊細で、命のような、はかない美しさがある。絞り染めの模様の線からは、作り手が布を縛る所作の記憶も伝わる。色と動きを楽しんでほしい」と話している。

6日午後7時からイザベルさんの講演会もある。展示会も講演会も無料。問い合わせは、アンスティチュ・フランセ九州＝092（712）0904。

への温かい視線が画面を覆っている。エンラセ＝092（401）3988。（井口幸久）

セアカゴケグモ 駆除奏功

福岡市

ベンチ下の隙間から出てきたセアカゴケグモに殺虫剤を吹きかける職員

アイランドシティ支局

福岡市は4日、東区香椎照葉1丁目（アイランドシティ）の市道で、特定外来生物の毒グモ「セアカゴケグモ」の駆除作業を行った。2007年10月に九州で初めて、アイランドシティ西側のコンテナターミナルで発見された赤い背中の「厄介者」。市内では南区を除く6区で生息が確認されたものの、駆除作業が功を奏し、数は減りつつある。

市が駆除作業を本格化したのは12年9月。香椎照葉の福祉施設で80代の女性がかまれてけがをしたのがきっかけだ。活動が鈍くなる11月を駆除強化月間と定め、市内全域の公園や市民センター、道路などで実施している。13年1～9月の駆除数は約1万4700匹に上ったが、15年の同時期は約3900匹と3割以下に減った。駆除数の9割以上が東区という。

この日は市職員ら8人が作業。慣れた様子で歩道のベンチ下の隙間や道路のガードパイプ、側溝などに殺虫剤を吹きかけていった。1時間で計25匹、卵のう29

糸島に癒やしを

足湯、今年も登場

フィニッシュ会場に設けられた足湯でくつろぐランナーたち（昨年）

第2の心臓といわれるふくらはぎを、ぬるめのお湯でじわっと温める。血行をよくする足湯は、フルマラソンを走ったランナーにとっては、たまらないごちそうだろう。

「移動式の足湯を思いついたのは、2011年の東日本大震災で、高校生がバケツで足湯する姿を見たことやったとですよ」。福岡市のミネラル水供給装置メーカー「クリスター」の岩本藤光社長（72）が言う。

魚を飼ういけすをヒントに半年掛けて開発。被災地の仮設住宅やイベント会場に置いては喜ばれていたが、昨年初めて、福岡マラソンのフィニッシュ会場（糸島市）に設置したところ大人気に。その後、主催者に乞われ、各地のマラソン大会で使われるようになったほか、アビスパ福岡の寮でサッカー選手たちの脚も癒やす。

今年の大会でもフィニッシュ会場に設置する。「一度に入れる人数は20人強。皆さんでほっこりぬくもって」と話す岩本さんだ。

（佐藤弘）

お年寄りの「七五三」

櫛田神社 長寿と健康願う

櫛田神社で行われた延命長寿祈願祭で記念品を受け取る参加者たち

長寿や健康を願うお年寄りの七五三「延命長寿祈願祭」が4日、福岡市博多区上川端町の櫛田神社であり、博多部の旧4校区のお年寄り約50人に、甘酒の接待などが行われた。

同神社は、不老長寿の御利益があるとされ、境内に生誕に一根絶に難しいが市民の安心安全を守るために今後も継続したい」としている。

櫛田のきたんがあることなどから、毎年、七五三の時期に合わせて行われる。本殿での神事の後、阿部憲之介宮司が「これからも地域に出てきて大人ぶった人たちを指導してほしい」とあいさつ。神職やみこから参加者一人一人に、千歳飴（ちとせあめ）やお守りなども手渡された。

同区冷泉町の高柳ミヤさん（99）は「櫛田の神様のおかげで生きてこられた。来年もぜひ参加したい」と笑顔だった。

日商保険コンサルティング

花時計

「問題は解決しなければならない」「これからも努力させていただく」―。福岡市内で開かれた諫早湾干拓事業（長崎県）の開門調査をめぐる意見交換会。国側は漁業者側にこう繰り返した。当然のことで、わざわざ答えるまでもない。肝心の「そのためにどうするのか」についての説明は、何の具体性もなかった▼訴訟が乱立し、混迷を極める諫早湾干拓問題。「抜本的解決には、話し合い以外に最良の道はない」。裁く側の裁判所もこう指摘し、当事者に相次いで協議の場の設置を促しているが、国側は難色を示している▼意見交換会で、国側は関係者が熟知する経過を長々と説明した上で、当たり前の意見を付け加える「お役所答弁」に終始した。何を言っているのか分からない、その見事さには脱帽した。（中原興平）

事件 事故

◆車で信金に突っ込んだ容疑で中3少年を書類送検　早良署は4日、道交法違反（無免許運転、当て逃げ）の疑いで、福岡市早良区の中学3年の少年（15）を書類送検した。書類送検容疑は9月8日未明、早良区野芥4丁目で、無免許で車を運転し、ブレーキ操作を誤って福岡信用金庫野芥支店の裏口ドア付近にぶつけて逃げた疑い。少年は車を放置して逃走。署は、少年に車を貸した大工見習の少年（15）も道交法違反（車両提供）容疑で書類送検した。

4th anniversary　脇屋友詞による2夜限りの「プレミアム美食ナイト」
第24回 食材研究会
2015年11月16日Mon・17日Tue

50名様限定!!　ANAで行く
憧れの高千穂峡
ツアー特典
●宮崎牛専門レストラン大淀河畔「みやちく」フルコースディナー（二万円相当）
33